



考え、創造するチカラ

「本を読むのに理由はいいません」。そう語るのは、泗水図書館の上村奈奈美司書。図書館を通して司書が考える本の効果について話を聞きました。

あなたを変える本のチカラ

絵本、児童書、漫画、小説、実用書…。幅広いさまざまな種類があるように、本は幼少期から大人までの幅広い世代に受け入れられる存在です。

10月27日から11月9日は読書週間です。時として、本はあなたに大きなチカラを与えてくれます。より良い本と出会うために。あなたにとっての本のチカラを考えてみませんか。

【問い合わせ先】中央図書館 ☎0968(25)1111

本を通して心の栄養を

「目的を持って本を手にとすることもあると思いますが、どの本を読むのかは本人次第。いろんなジャンルに親しんでもらえればうれしいです」と上村司書は笑顔を見せます。「自分で体験できることは限られています。でも、本を読むことで、行ったことのない世界、知らない場所、過去の時代に行く「疑似体験」ができます。この体験によって、視野が広がり、物事を多角的に見て、新たな価値観を得ることができると続けます。市では平成29年3月に「きくちっ子読書プラン(第2次 菊池市子どもの読書活動推進計画)」を策定。家庭や学校、図書館などで、読書を推進するために本プランに沿って活動しています。情報を正しく判断し、自ら行動する力をつけるためにも「本」と「対一」で向き合う読書は、子どもの自立にとって極めて重要です。本を読むことは、「読む力」だけでなく、「考える力」

や「共感する力」、「創造する力」を培い、「好奇心」や「探求心」を育む心の栄養になります。

親子のふれあいを

子育て支援の一環として市では、すべての赤ちゃんへ絵本を開く楽しい体験と一緒に「ブックスタート」を行っています。「きくちっ子読書プラン」でも推進しているこの活動について、上村司書は「親子のふれあいのひとときを持つきっかけづくりの意味合いが大きい」と話します。「親の声は赤ちゃんにとって居心地が良いもの。本は演出の道具のひとつです。赤ちゃん向けの絵本は同じような言葉を繰り返すことが多いのが特徴です。パ行やバ行など、赤ちゃんの耳に気持の良い言葉を選んで作られています。「赤ちゃんはこの心地良さを覚えていきます。親子にとってとても大切な時間なんです」と強調します。

本選びに迷ったら図書館へ

図書館で本を選ぶ際には、「司書に頼ってほしい」と上村司書は言います。司書に相談することで、求めている本をより正確に速く手にすることができます。「分からないことがあったり、どの本を選べばいいか迷ったりしたときは相談してください。子どもから大人まで、それぞれの要望に沿った本を選んで紹介します」と力を込めます。「本は何歳から読み始めてもかまいません。読み聞かせをするために本を読み始めた、という利用者もいましたよ」



菊池市立図書館 上村奈奈美司書

ブックスタート

抱っこのぬくもりのなかで 絵本を読んでもらう幸せをすべての赤ちゃんのもとへ (NPOブックスタートホームページより)

ブックスタートは、1992年にイギリスで始まりました。日本では2000年の「こども読書年」を機にブックスタートが紹介され、その後全国各地に広がっています。菊池市では、合併前の旧泗水町で平成16年に始まり、合併後は市の事業として継続して行われています。3・4カ月健診時に、図書館の司書や読み聞かせボランティアが絵本2冊とバッグを手渡しています。



初めてのブックスタートで、司書による絵本の読み聞かせを楽しむ、陶山朋代さんと息子の恵生ちゃん(富の原西)



♪ろうそく ぱっ もひとつ ぱっ これからはじまる おはなしかい…♪

ようこそ、おはなしの世界へ

真剣に見入る子どもたちの視線の先には、読み聞かせボランティアの姿が。市では11団体の読み聞かせボランティアグループが活動しています。今回は2団体に話を聞きました。



おはなしのもり

親子で楽しむ時間の共有を

25年以上前から保育園や小中学校を中心に読み聞かせをしています(現在は10人で活動中)。

読み聞かせでは絵本が主役。絵本のお話を“伝える”ことを大事にしています。その上で、絵本の持ち方や読み方、めくるときのスピードなどの基本的なことをしっかりと実践するよう心掛けています。

子どもは楽しいと、お母さん・お父さんの顔を見ます。読み聞かせをしているときに、そんな姿を見ることができたときはとてもうれしいです。読み聞かせを通じて、親子の時間を共有し、楽しんでもらえるようこれからも活動に力を入れていきたいです。



おはなしのもり
原保奈美さん
(日生野)



しすいっ子童話会

本の楽しさを子どもたちに伝えたい

平成5年から活動を行っており、主に泗水図書館や泗水小・中学校で、読み聞かせをしています。

読み聞かせをすると子どもたちは、こちらの呼びかけに反応してくれるので、とてもやりがいがあります。昔に比べて本を読む人が少なくなっているので、絵本を入口にして本を好きになる人が増えてくれればうれしいです。

本にはたくさんの力があります。本(絵本)を読むことで、想像力が高まり、豊かな心を育てることができます。これからも本の楽しさを子どもたちに伝えるお手伝いができたらうれしいですね。



しすいっ子童話会
宇野木益子さん
(南住吉)

子育て親育ち 絵本で育む生きるチカラ

昨年、市内の学校で開かれた中高生のための読み聞かせ教室で講師を務めた、県教育委員会「肥後っ子いきいき読書アドバイザー」の筑紫紀子さんに、読み聞かせについて語ってもらいました。

おはなしの世界で心豊かに

子どもの成長には、五感を刺激する実体験が大切です。特に0〜5歳くらいの脳は生涯で一番急激な発達をする時期といわれています。しかし、「直接体験^{※1}」だけで子どもの脳にバランスの良い刺激を与えるには限界があります。

豊かなものにしていきます。そういった意味でも、すべての家庭環境に絵本を取り入れるブックスタートは、子どもの成長に大きな力をもたらすと言えます。

絵本で子育て親育ち

一方、絵本は現実で体験できないことも、「間接体験^{※2}」することができます。子どもたちは読み手の言葉や表情からイメージを膨らませ、おはなしの世界を楽しみます。そして、絵本を通して言葉を覚え、感性・表現力・創造力を

子どもにとって親子の読み聞かせは、大人の愛情をしっかりと受け取れる最高の時間です。その愛情の記憶は、生きる力を育む礎として生涯にわたる子どもを支え続けます。上の子(兄弟)にとって、赤ちゃん(弟妹)が寝ている間にしてもらう読み聞かせは

本は「ミライ」への扉

子どもは現実と物語の世界を自由に行き来する中で、新しい発見や出会いを経て、楽しみながら成長します。その体験は絵本から幼年童話、そして児童文学、Y・A文学^{※3}、

格別です。お母さん・お父さんを独占できる、とっておきの時間になります。絵本を通して子どもの心情や興味関心の傾向を知り、理解を深める。子どもがいるからこそ親になれる。子育てだけでなく、絵本は親育ちをさせてくれる存在でもあります。

家庭での読み聞かせのポイント

読み手は声色を使わない方が子どもの自由な想像を促します。年齢が低い子どもに対しては、少しか声色を変えると登場人物の違いが分かりやすくなることもあります。

※1 実際に体験すること
 ※2 物や人を介して学ぶこと
 ※3 おおよそ12歳から18歳までの読者層。ヤングアダルト文学ともいう



県教育委員会
肥後っ子いきいき読書アドバイザー
筑紫紀子さん(元合志図書館長)
【推し本】『絵本で子育て・親育ち』渡辺順子/著

おはなし会参加者の声



いつも楽しんでます

緒方芳美さん
翼ちゃんⓄ・椿ちゃんⓄ(北原)

図書館で読み聞かせが行われている日はいつも参加して、親子で楽しんでいます。今日は子どもの好きな『とけっこう よがあげた』の読み聞かせもあり、とても喜んでいました。



読み聞かせを聞くとワクワクします

吉村 理くん(隈府小学校3年)

おはなし会ではいろんなおはなしが聞けるので、いつも楽しみにしています。今日は手遊びや桃太郎のお話が聞けてワクワクしました。また、おはなし会に参加したいです。

ブックスタート参加者の声



動作を交えて読み聞かせ

菅 光里さん・真月里ちゃん(富の原西)

ブックスタートは上の子に続いて2回目。寝る前にいつも読み聞かせをしていて、子どもの寝つきもいいです。大好きな『くっついた』の絵本は動作を交えて読むと、子どもが喜びます。



初めてのブックスタート

陶山朋代さん・恵生ちゃん(富の原西)

今回初めてのブックスタートでした。家では音の出る絵本や図鑑などに興味を示しています。絵本を通じて、将来、本を読む子に育ってもらえたらうれしいですね。



5人の“本の虫”を紹介



福川雅三さん(福本)

若い頃は毎日1冊読んでいました。自分の性格や日記の文体、時には見る夢も変わるほど、本に影響されています。

【残り者】
朝井まかて / 著
推し本



永田由紀子さん(上西寺)

図書館のボランティアに参加しています。子ども3人を育てる主婦です。ジャンルを問わず、月に20冊ほど読みます。

【豆の上で眠る】
湊かなえ / 著
推し本



岩木亨平さん(同書)

初めて自分で読み切ったという感覚があるのは、小学生の頃に読んだ『はてしない物語』(ミヒャエル・エンデ / 著)です。

【サードドア 精神的資産のふやし方】
アレックス・バナヤン / 著
推し本



平美月さん(高2)

菊池高校の2年生です。好きな本は何度も繰り返し読むことがあります。将来の夢は看護師になることです。

【劇場版コード・ブルー ドクターヘリ緊急救命】
安達奈緒子 / 著
推し本



園原咲妃さん(高2)

菊池高校に通っています。原作本には、映画では見られない登場人物の感情を細かく知ることができる魅力があります。

【小説 映画 溺れるナイフ】
松田朱夏 / 著
推し本



永田由紀子さん



園原咲妃さん



岩木亨平さん

平 学校の朝読書の時間に本を読んでいます。その時、周りの雰囲気も静かになります。本は気持ちを落ち着かせ、集中力を高める力があると思います。

園原 僕は学校の図書館がきっかけで、一人図書館に行くようになったのは小学4年生のころ。恐竜が好きで恐竜の本ばかりを読んでいました。読書感想文では、なるべく薄くて読みやすいものを探していましたね(笑)

岩木 本を読むと、著者の知識に触れることができ、自分とは違ういろんな人の考えや視点を知ることができるんです。自分一人ですらうもないとき、行き詰まったとき、逆境に立ったときにこそ、本を読む本はいつでも自分の味方になってくれる存在です。

永田 私は普段、子育てや主婦業に明け暮れていて。世の中のニュースをしっかりと知りたと思って、池上彰さんの本を読みあさって、世界の出来事や事件について教わりました。教養を身に付けるきっかけになり、視野が広がったと実感しています。

園原 私も小学4年生のころ、読書感想文を描く課題があって、読みやすい本ばかり探していました。でも、みんな考えることは同じで、そういう本はほとんど図書館で借りられていて。仕方なく選んで読んだ経験があります。その時読んだ本は『トイレの神様』(植村花菜 / 著)でした。読んだら意外と面白くて。それが本を読み始めるきっかけになりました。

永田 赤ちゃんは、泣いて生まれてくる。これも本から学んだんですが、赤ちゃんは何も知らず分からないから、怖くて泣くらしいんです。でも、本を読むと知らないことがなくなっていく、怖いものがなくなっていく。私は精神的に弱くなっているときにこそ、本をたくさん読みます。そして、本が自分を奮い立たせてくれます。私にとって本は自分を「強くしてくれるもの」です。

—本を読み始めたきっかけは？



平 美月さん

小さい頃から母に日本語や英語の絵本の読み聞かせしてもらっていました。当時の記憶は今でもしっかりと覚えていて。その影響もあって、本を好きになったんだと思います。毎週日曜には、泗水図書館に行って本を借りていました。

物心つくころには自分で本棚から本を取り、読んでいました。



福川雅三さん

福川 僕は学校の図書館がきっかけでした。一人で図書館に行くようになったのは小学4年生のころ。恐竜が好きで恐竜の本ばかりを読んでいました。読書感想文では、なるべく薄くて読みやすいものを探していましたね(笑)

—本を通して自分が変わった経験はありますか？

岩木 私の場合、両親が本好きで、大きな本棚が家の中にあっただけで、私も幼い頃から身近に図書館があったので、通うのが習慣になっていきました。子どもたちには、大人になっても本を読んでもほしいという思いもあって、一日2冊は絵本の読み聞かせをしていました。多い時は1カ月に50冊ほど読み聞かせをしてきたかもしれません。

岩木 本好きが高じて、大学では図書館専門学部に行きました。入学して最初の授業で「君たち本は好きか？でもそれだけじゃダメだ。好きだけでは務まらない」と言われた時は、ちょっとショックでした。でも、逆に本のことについてもっと知りたいと思うようになりました。「本好き」ということが私の人生を変えました。

岩木 本好きが高じて、大学では図書館専門学部に行きました。入学して最初の授業で「君たち本は好きか？でもそれだけじゃダメだ。好きだけでは務まらない」と言われた時は、ちょっとショックでした。でも、逆に本のことについてもっと知りたいと思うようになりました。「本好き」ということが私の人生を変えました。

本の語り場

「本が好き」「図書館を良く利用する」という年齢の異なる5人に、それぞれが抱く本に対する思いを語ってもらいました。



図書館に行こう

本をより身近に感じてもらうために、図書館では展示を工夫したり、イベントを行ったりしています。まだ見ぬ本との出会いを求めて。図書館で本のチカラに触れてみませんか。

進化を続ける図書館

中央図書館は平成29年に公民館との複合施設、菊池市生涯学習センター「KICROSS（キクロス）」として新たに開館しました。今年の5月には旭志図書館もリニューアル。どの館でも、本の貸出はもちろん、市民に幅広いジャンルの本に興味を持ってもらうため、特集コーナーを設け、展示を工夫しています。

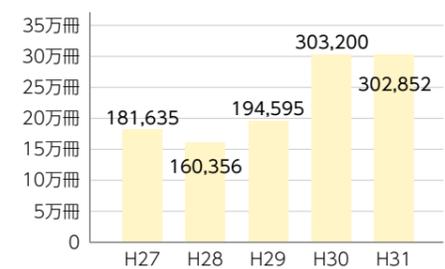
「本を読むことで、知らない世界への第一歩を踏み出してほしいです。いろんな世界を旅してほしいですね」と話すのは、菊池市立図書館の安永秀樹館長。「読んだ本を記録できる図書通帳にも取り組んでいます。自分がどれだけ読んだのか、本の金額とともに記録されるのでお勧めです。9月からは読み聞かせやイベントも再開しましたよ」

貸出冊数も増加

「熊本地震や新型コロナウイルスの影響もありますが、

図書館の貸出冊数は増えていきます」と安永館長は話します。「平成30年度末には30万冊を超えました。たくさんのお本とふれあってほしいです」

市の年間貸出冊数



電子書籍の取り組みも

「本は紙だけにとどまりません」と安永館長は続けます。「きくち電子図書館」という電子書籍の取り組みを進めています。スマートフォンやタブレット端末から、いつでもどこでも本を読むことができます。今後、さらに電子書籍を充実していきます。学校の文集や団体の会報なども電子書籍化できますよ」と話します。

課題解決の一助に

課題解決の手助けをすることも図書館の役割として重要です。「困りごとや疑問に答えることも図書館の使命と、市民のやりたいことや夢を応援していきたいですね」



菊池市立図書館 安永秀樹館長

4館合同 企画展示

10月15日(木)まで 募集中!

読書週間「図書館の本でやってみるばい」

図書館の本で新しいことにチャレンジしませんか。手芸・工作・絵画・料理・ガーデニングなど、皆さんの力作を館内に展示します。

応募方法 図書館のカウンターに作品(または写真)と申込用紙を持参してください。メールでも受け付けます。詳細は図書館ホームページやチラシをご覧ください。

人生に効く 本はあなたを変える 『カンフル剤』

「あなた、その本面白かった？」
「実は、読むの3回目なんだよ」

本は、読むたびに新たな価値観を与えてくれます。

本は、自分を変えるきっかけになります。

本は、時にさりげなく、自分に寄り添ってくれます。

あなたにチカラを与えてくれる本はどんな本ですか。

年齢を重ねるごとに、本を通して新しいあなたの1ページを開いてみてください。



檀上益光さんと苺美さん夫婦(杉生)。二人が経営するペンションの書齋にて



中央図書館

隈府872番地1
(火)~(金) 午前9時~午後7時
(土)(日)(祝) 午前9時~午後5時



泗水図書館

泗水町福本305番地1
(火)~(金) 午前10時~午後6時
(土)(日)(祝) 午前10時~午後5時



七城図書館

七城町甲佐町74番地1
(火)~(土) 午前9時~午後5時



旭志図書館

旭志小原240番地
(火)~(土) 午前9時~午後5時

※各図書館の問い合わせ先はキクロスだより(21頁)に掲載しています